

知って みたい 消化器 の病気

第3回



丹野誠志

(たんの・さとし) 1990年旭川医科大学医学部卒、94年同大医学部大学院卒、同大付属病院准教授を経て、10年琴似ロイヤル病院副院長に就任。12年より同院長、日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医。

脾臓とお酒のはなし

お酒の飲み過ぎは、さまざまな病気を引き起こします。このことは一般的にもよく知られて

いますし、医学的にみても間違いない事実です。

お酒を飲み過ぎると、まず肝臓を心配する人がほとんどかもしれません。肝機能の異常を健診や人間ドックで指摘された人

も多いでしょう。しかし、脾臓を心配する人は、意外と少ないのではないのでしょうか。

脾臓の病気に、お酒の飲み過ぎが原因となる「慢性脾炎」があります。慢性脾炎は、とても

厄介な病気で、初期の段階では特有の症状がありません。しかし、ある程度進行すると、脾臓に石（脾石）ができます。脾石ができるため、腹痛を繰り返すようになります。こうなると、脾臓の中で悪循環が繰り返され、脾臓の働きがどんどん悪くなっていきます。

脾臓の働きが低下すると、糖

尿病になることがあります。脾臓からは、インスリンという血糖値を下げる大切なホルモンが出ていますが、このインスリンが少なくなるため血糖値が高くなります。

さらに、脾臓からの消化酵素が少なくなります。それにより、脂肪の吸収が悪くなるため、栄養状態が極端に悪くなり、消化されない脂肪が便に残ることで

脂便と呼ばれる下痢がみられるようになります。

この慢性脾炎の診断ですが、以前は脾石がはっきり見える大きさになるか、入院が必要な特殊検査をしなければ診断できませんでした。しかし、最近では「超音波内視鏡」という外来で

対応可能な検査で、慢性脾炎かどうかを早期に診断できるようになってきました。

慢性脾炎は、お酒以外の原因でなることもあります。それは自己免疫性脾炎です。お酒を飲まないのに原因不明の慢性脾炎と診断された人は、この病気の

可能性があります。

慢性脾炎の人は、脾がんにもかかりやすいことがわかっています。また、脾石に対しては内視鏡で治療できるケースもあります。心配な人は、脾臓を専門とする医師の診察を受けることをお勧めします。